

ウォーキング コース

【牧堰・まきぜき】牧堰は、鮎壺の滝 300m 上流に於いて黄瀬川の水を分水する堰で、市内北小林地区内で取り入れ、ほぼ沼津の狩野以北、黄瀬川以西、東間門以東の農業用水として使われた。

1602 年（慶長 7 年）岡宮・東間門以東 15 ヶ村に依る組合がつくられ、その後 1645 年（天保 2 年）には門池は補助貯水池としながら 397 町歩の水田を潤した。

牧堰の水の多寡は農民の生活・生命に直結するものであったから、干ばつ時には川下の本宿堰や大岡と沼津宿などの間で水争いが起き、順番に水を配る番水や夜通し水路を見張る番小屋が建てられたりしたが、時には流血の惨事すら起こることもたびたびであった。



【門池】元は鎌倉時代初期から使用されていた溜め池「上津池（かみついけ）」か？ 1602年（慶長7年）につくられた牧堰用水路を補助する為に1645年（天保2年）灌漑用の溜め池として整備された。洪水で池が埋没し、1858年（安政5年）の浚せつ時に安政島が造られた。大正期には、土砂の流入により灌漑の機能が果たせなくなっていたが、1923年（大正2年）の関東大震災以降は黄瀬川の水量が減少し、牧堰用水の不足を補う必要が生じたため、静岡県により農業用排水幹線改良事業が実施される事になり、1930年（昭和5年）竣工した。1933年（昭和8年）緑色の帽子をかぶった配水塔（現在はモニュメント）が造られ1951年（昭和26年）には沼津市に移管された。1968年（昭和43年）から導水路工事等により池の面積が縮小された。ヘラブナ釣りのメッカでもある。

【鮎壺の滝と亀鶴伝説】亀鶴姫の碑が有る臨濟宗潮音寺、この寺は駿河一国三十三番札所、駿豆黄道十一番札所にあたり、本尊は亀鶴観音という。亀鶴姫は駿河の国大岡荘黄瀬川村の長者、小野善司左衛門の一人娘として生まれ世に聞こえた美女であった。この亀鶴姫は曾我兄弟が工藤祐経（すけつね）の寝所に討ち入ったとき遊女として添い寝していたという。**1193年（建久4年）**、富士の巻き狩りの折その美麗を伝え聞いた源頼朝が強く召されたが応ぜず、18歳の春（当時亀鶴は亡き両親の供養の為に毎日写経をして暮らしていた）、黄瀬川の上流鮎壺の滝に身を沈めた（仏門の身である事から固辞し滝に身を投じてしまった）という。姫は亀鶴観世音菩薩として潮音寺に祀られており、諸病全快の菩薩と言い伝えられている。